

2006 年度

科目名	対象学科・学年 専攻科教福(専)1 回生	担当者
日本文学特講Ⅲ		高橋 圭一
授業テーマ 江戸文学の一ジャンルである実録研究。		
授業の概要と目標 実録体小説、略して「実録」についての講義です。実録とは「事実の記録風の小説」の意で、多くは江戸時代に実際に起こった事件を題材とし、いかにもこれが真実であると銘打たれているものの、浮世草子や読本同様全くの創作とみなすべき作品群です。予定より遅れていますが、いずれ『大坂城の男たち』という本（岩波書店刊）を出しますので、大坂の陣関係の実録を専ら取り上げる予定です。		
評価方法 講義終了時にレポートを提出してもらいます。普段の出席も重視します。		
テキスト 使用しません。プリントを配布します。下記の拙著、およびそれ以降に発表した拙稿のコピーを主とします。	著者	出版社
参考書 『実録研究一筋を通す文学』（購入の必要はありません）	著者 高橋圭一	出版社 清文堂
授業スケジュール・内容 1、序説。実録とはいかなる文学か、どのような作品（群）があるのか、どのように読まれたのか、など。 2、 続き。幕府からはどのように見られたのか、など。 3、 続き。実録と軍学など。 4、実録と講談。講談師、馬場文耕と森川馬谷。『只誠埃録』（シセイアイロク）より。 5、 続き。 6、各論その一 「大坂城中の花」木村長門守重成。 7、 続き。木村長門守の堪忍袋。 8、 続き。和睦の使者、木村長門守。 講談「村越茂助誉の使者」と落語「粗忽の使者」 9、 続き。木村長門守の死。蘭奢待の香り。 10、各論その二「豪傑」後藤又兵衛。 11、 続き。その高名。武辺話中の後藤又兵衛。 12、 続き。近世軍記『難波戦記』中の後藤又兵衛。 13、 続き。後続の実録に描かれた後藤又兵衛。 14、 続き。明治期の講談速記本中の後藤又兵衛。 15、又兵衛が主人公である浪花節「お笑い難波戦記」を聴いてみましょう。 16、各論その三「怪しい」軍師真田幸村。 17、 続き。抜け穴と短銃。 18、 続き。父昌幸のこと兄信之のこと、など。 19、 続き。機略縦横の軍師の誕生。 20、大坂の陣物の実録中、最大長編『泰平真撰 難波秘録 本朝盛衰記』について。その概略。 21、 続き。諸本のこと。成立論。講談との関係など。 22、 続き。『附録』の琉球攻めについて。『島津琉球軍精記』との関係など。大坂の陣は終わり、その後日譚になります。 23、『薩琉軍談』について。脇道にそれますが、しばらく付き合ってください。 24、本筋に戻ります。各論その四「苦悩の忠臣」片桐且元。 25、 続き。「桐一葉」の片桐且元。片桐且元と大筒。 26、 続き。「大坂方のスカウト」片桐且元。 27、各論その五「橙武者」薄田隼人と「助太刀屋」塙団右衛門。 28、 続き。薄田隼人の失態と雪冤。『本朝盛衰記』に描かれた壮烈な最期。 29、 続き。塙団右衛門の実像。 30、 続き。豪傑塙の助太刀。「天下茶屋の敵討ち」など。『本朝盛衰記』における勇壮な最期。 芸能鑑賞法Ⅱで講談師が実演する回は、時間が許せば、是非聴講してください。 私は近世を専門としますので、戦国から近世初頭の戦を扱った作品のみを取り上げます。中世軍記については、どなたかゲストをお迎えして講義をお願いしたいと考えています。		